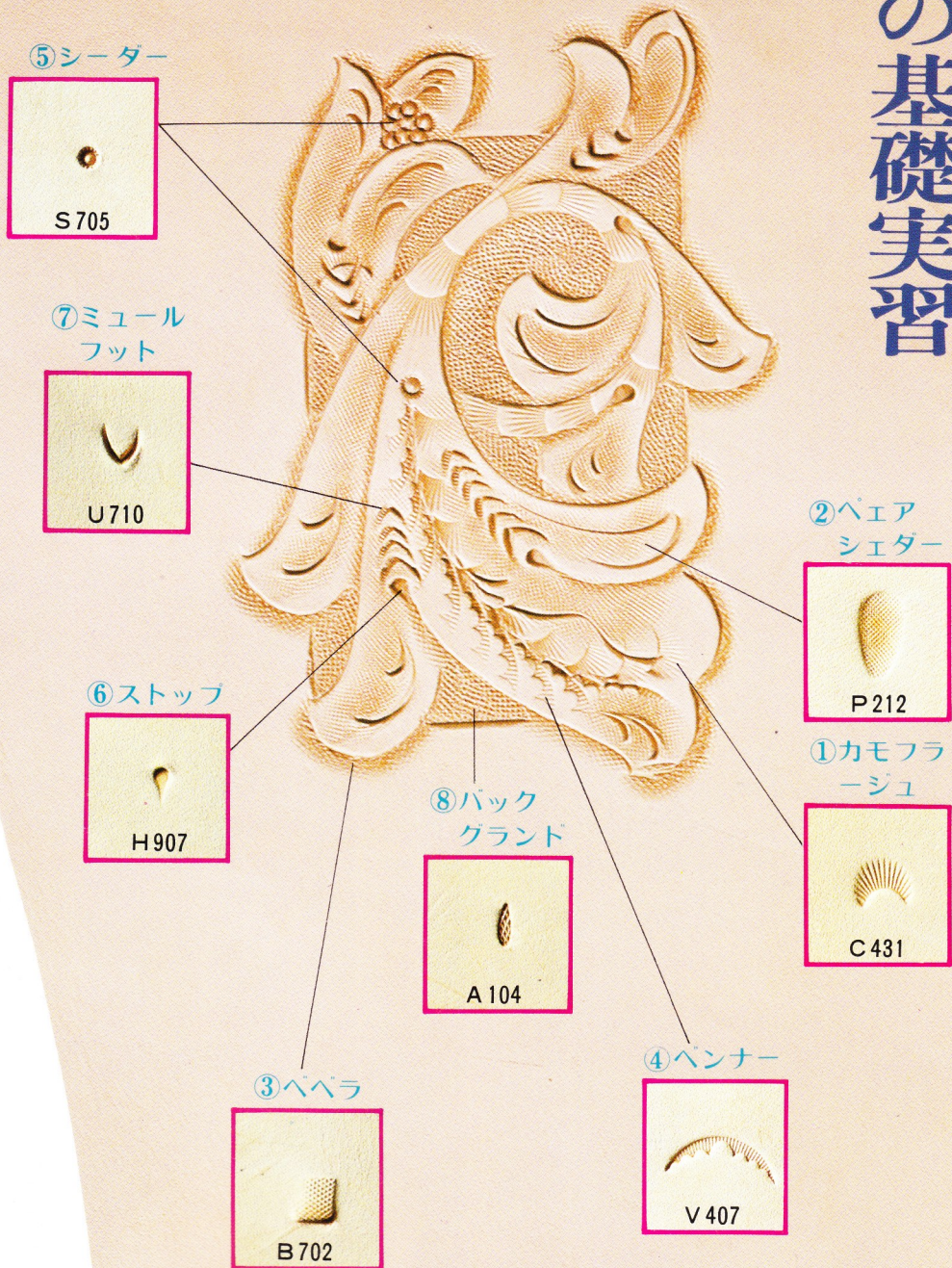


# カービングの基礎実習

カービングの基礎の技術とコツを、基本的な唐草模様制作プロセスを追いながらくわしく解説します。

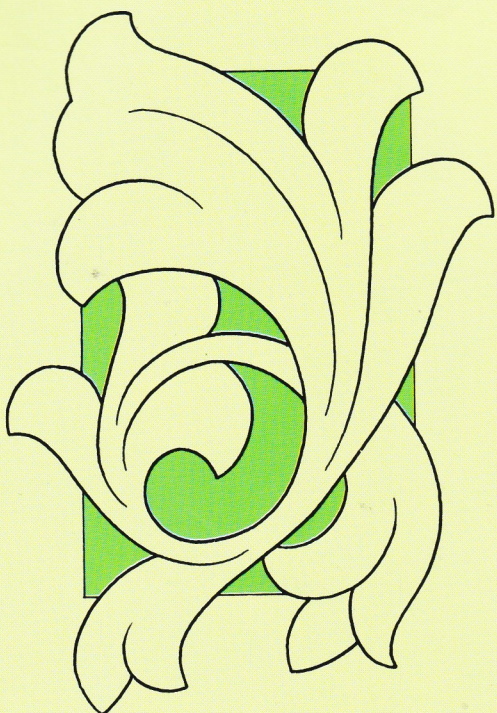
この唐草模様はカットと八種類の基本の刻印から成り立っています。それぞれの刻印が、花や葉のどの部分にどのように打たれていくかを学び、実際に試し革で練習して、その打ち方をマスターしましょう。

★刻印を打つ順序は、このプロセスではベベラを一番に打っていますが、初心者の方は①〜⑧の順に打つようにしましょう。カモフラージュのカット線からはみ出した刻印をベベラで消すことができます、美しく仕上がります。(小社刊「レザークラフト」参照)



このカービングは少し拡大されており、実物の図案は14ページにあります。ただし、刻印の大きさは実物大です。

### 彫刻の大図案



重写しをいまいまい描き加えたいところを、強く描き加えたいところを、**②** 変えてみる。まず、対称図案の場合、中央の部分を写し出し、その両側に写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

**③** 変えてみる。対称図案の場合、中央の部分を写し出し、その両側に写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

**④** 変えてみる。対称図案の場合、中央の部分を写し出し、その両側に写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

**①** 対称図案の場合、中央の部分を写し出し、その両側に写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

**②** 変えてみる。対称図案の場合、中央の部分を写し出し、その両側に写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

**③** 変えてみる。対称図案の場合、中央の部分を写し出し、その両側に写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

**④** 変えてみる。対称図案の場合、中央の部分を写し出し、その両側に写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

図案を写し出す



# 図案を写す

鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。このとき、鉛筆の太さを調節し、元の図案よりも濃い線で写し出す。

# 刻印を打つ位置

それぞれの刻印を、4枚の革に打ち分けました。  
図案は53ページのショルダーバッグ(部分)と同じ  
もので、違った刻印を①~⑩の順に打ちます。

③ベエアシェダー P232 P212  
④ペベラ B702 B803



①カット  
⑥シーダー S705  
⑦ミュールフット U859  
⑧ストップ H908



でき上がり

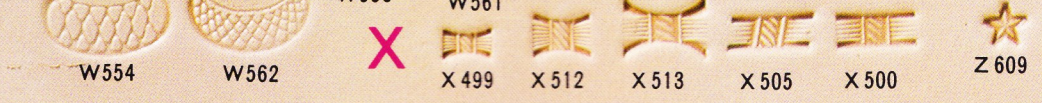
⑩デコレーションカット



②カモフラージュ C830  
⑤ペンナー V407  
⑨バックグランド A106



# スタンプング模様のための刻印

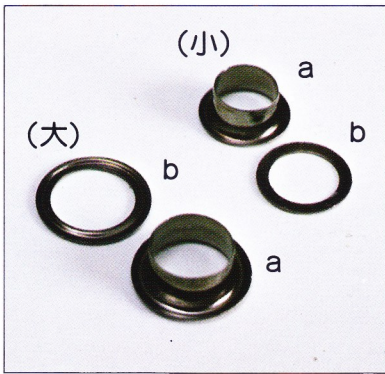


(実物大)

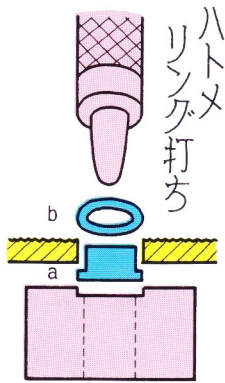
ここにあげた刻印はその模様を見せるためのものです。刻印を組み合わせる楽しいスタンプング模様を作りましょう。

本書でとり上げた、革に打ちつけた実物大の刻印は、スペースの都合で省略したものもあり、刻印の全部ではありません。

## リング

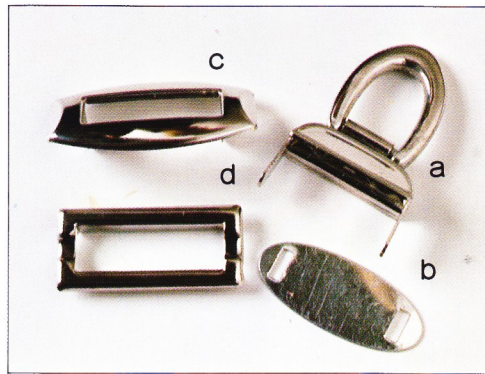


リングに合った穴をあけ、革の表を下に向けて打ち台に置き、aとbをはめ合わせ、打ち棒を穴に通して木づちで打ちます。

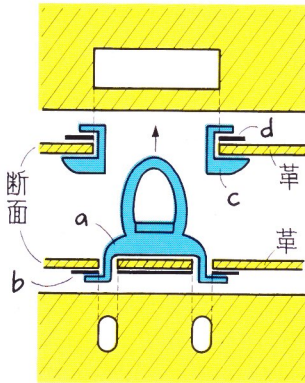


ハトメ  
リング打ち

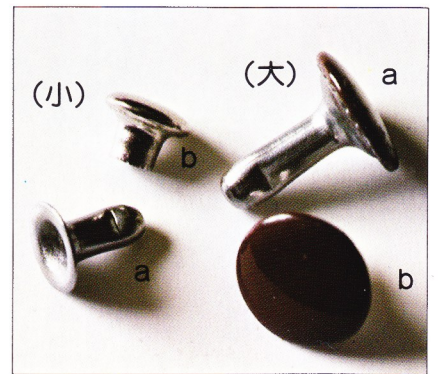
## ヒネリ



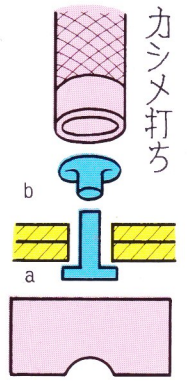
バッグの胴とふたを止め合わせる金具で、いろいろな形があります。a bを胴側に、c dをふた側につけます(57ページ参照)。



## カシメ

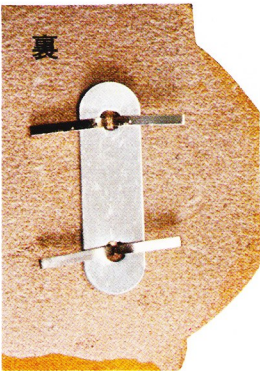


二枚の革を止める金具で飾りにもなりません。革に金具に合った大きさの穴をハトメ抜きであけ、裏からaをはめて打ち台の上に置きます。aにbをかぶせ、金具に合ったカシメ打ち棒を当て、木づちで打ちます。

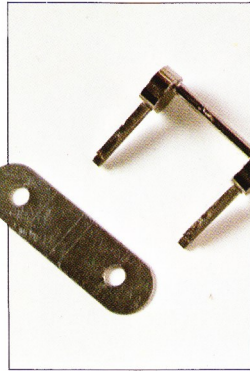


カシメ打ち

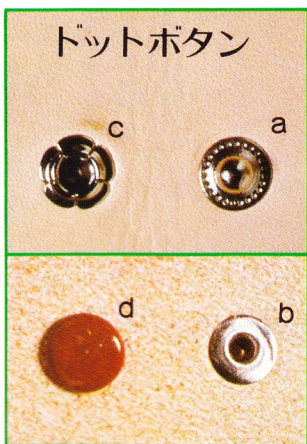
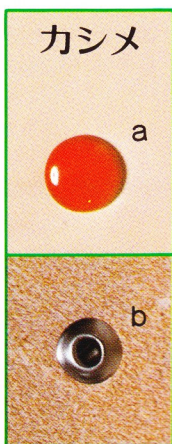
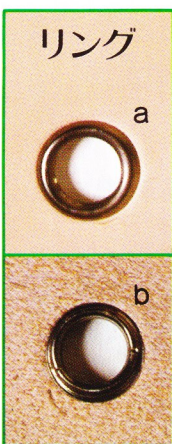
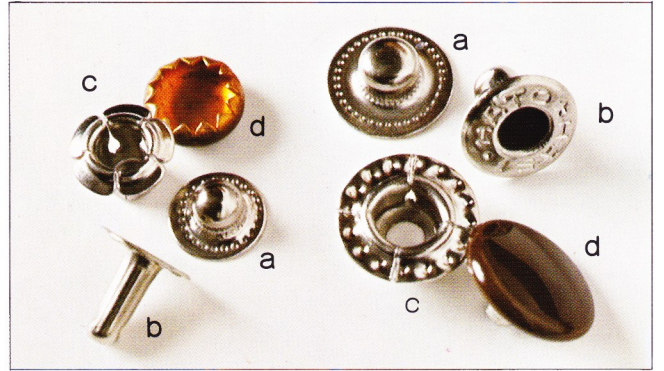
## タイコ



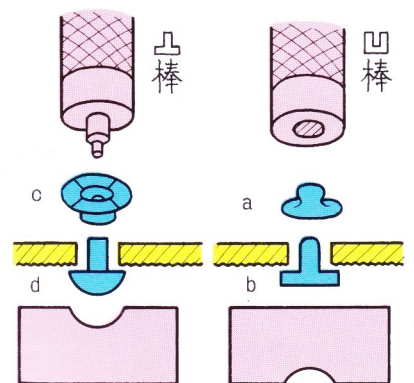
バッグの肩ひもなどをつるす金具です。革に穴を二つあけてとりつけます(57ページ参照)。



## ドットボタン・ホック

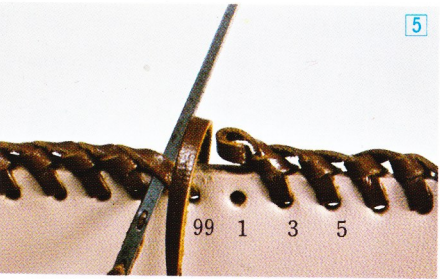
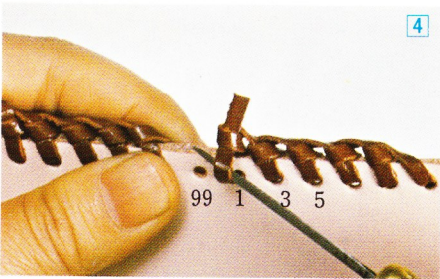
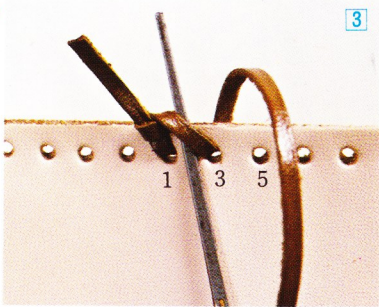


止めたりはずしたりする部分につけます。aとcがはめ合わされるように、革の表と裏に注意して図の要領でとりつけます。穴をあけるハトメ抜き、打ち棒、打ち台は金具に合ったものを使います。



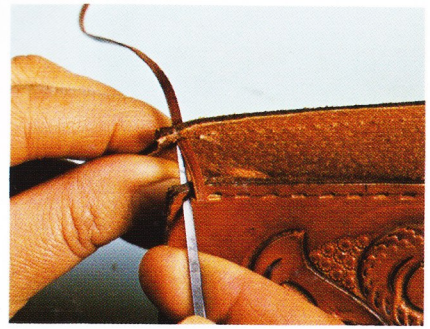
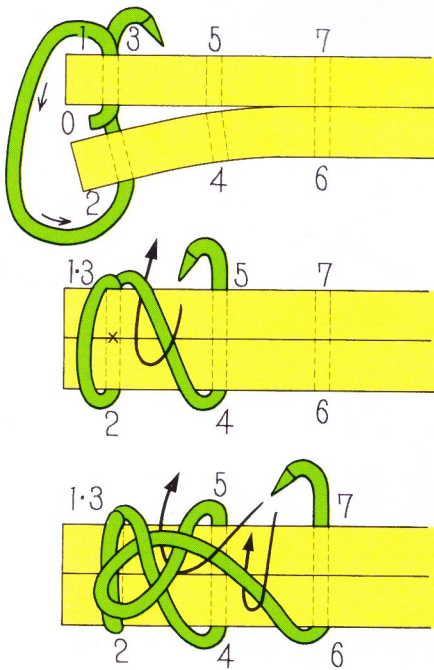
# ステッチ

シングルステッチとダブルステッチはカービングの仕立てにはよく使います。いずれもかっちりとかがれ、見た目にもきれいです。かがり方の方領は二つとも同じですが、シングルの場合は交差している革レースの上の一本をすくってかがっていきます。両ステッチの①～⑨の写真



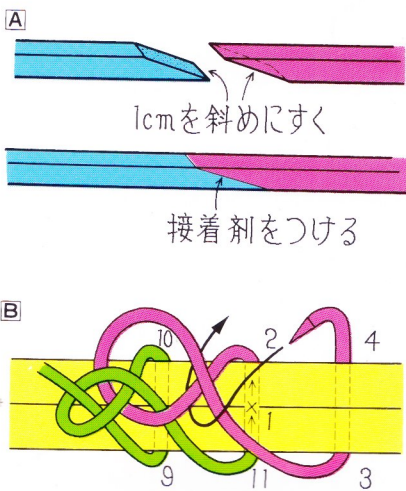
シングルステッチに必要な革レースの長さはかがる長さの5倍くらいです。

# かがり始めと終わり



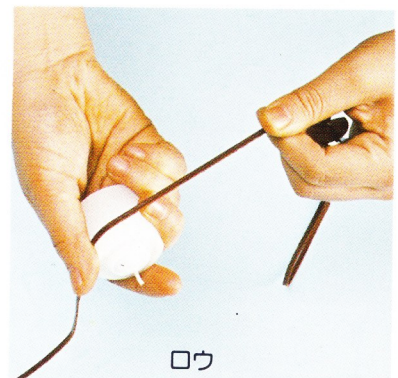
かがりには、革の端から始めて端で終わる場合(例・バッグのまちと胴)と、一周する場合(例・札入れ)があります。端から端で終わる場合は、そこからほつれないように、しっかりと始末します。  
**始め(図参照)**／レースの端を接着剤で裏面に止める革の間から針を出し、最初の穴に二度通します。  
**終わり**／始めと逆です。最後の穴に針を二度通し、端を切って裏面に接着剤で止めておきます。  
**一周の場合**／途中から始め、終わりはステッチを一つ重ねて、レースの両端を革の間に出して、接着剤で裏面に止めます。シングル・ダブルステッチで一周する場合は、左の写真のようにすれば、よりよいです。

# 途中でのつなぎ方



革レースは長すぎるとかえってかがりにくく、1m前後が使いやすい長さです。革レースが途中で終わったなら、端をすいて接着剤で新しいレースと一本につなぐか(A)、革と革の間に両端を出して裏面に接着剤ではりつけて始末します(B)。

# 革レース

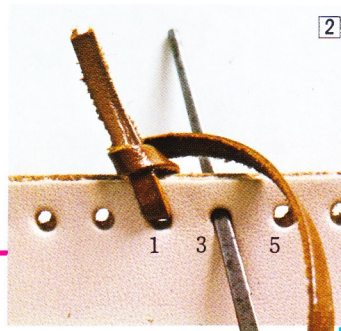


かがりに使う革ひもを革レースと呼んでいます。革レースは材質、色、幅、厚さの違ったものがあります。自分でも染められます。必要に応じて使い分けましょう。  
 革レースはかがるときに繊維が逆らわないように針につけます。すべりが悪いときは、裏にロウまたはスベールを塗ります。

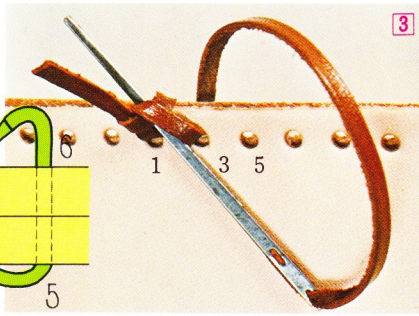
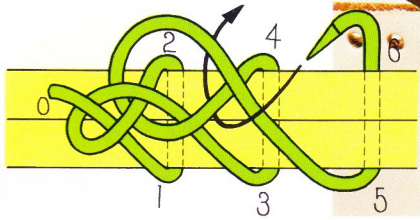
# ダブルステッチ

# シングル

は、途中からかがり始めて一周して元の位置に戻ったときの最後の始末の仕方です。  
 革レースの始めの端を一穴はずして革の間に入れて輪を残します(4)(5)。この輪に一周した革レースを通し(6)、シングルはそのまま、ダブルは前のかがり目をすくって最初の穴に針を入れ、革の間に端を引き出して始末をします(7)(8)(9)。こうすればつなぎ目がわからなくなります。

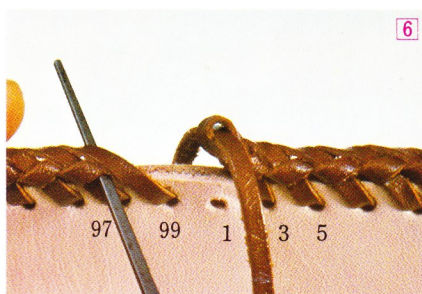
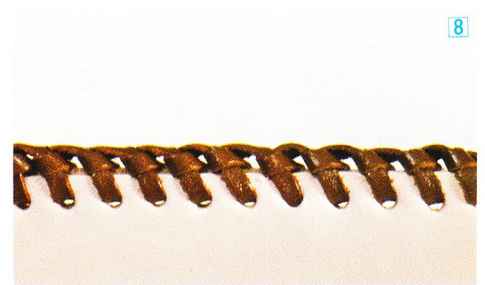
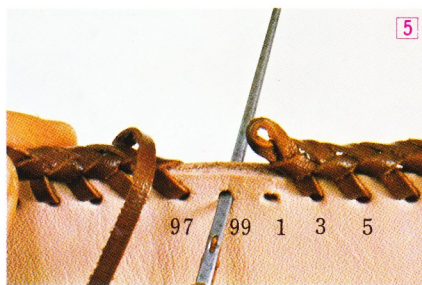
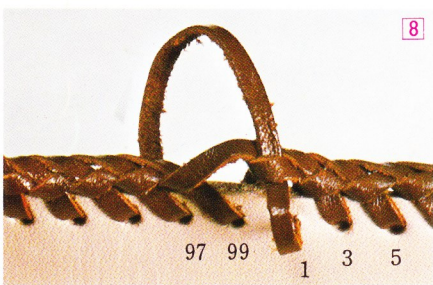
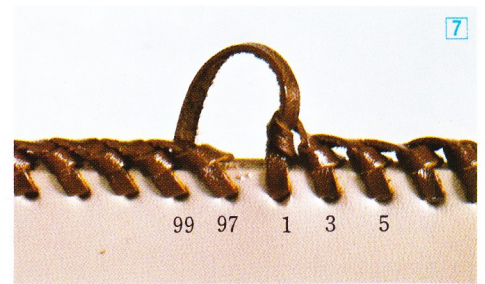
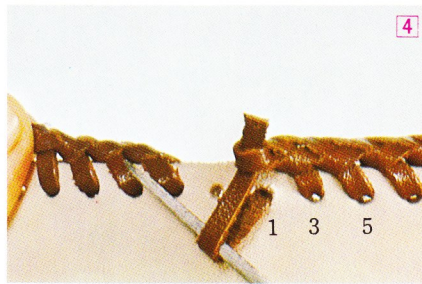
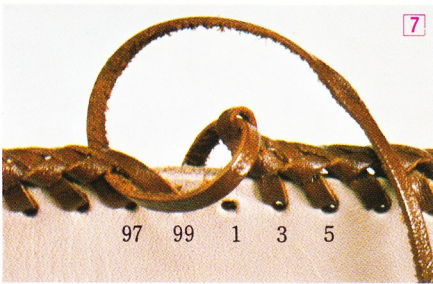
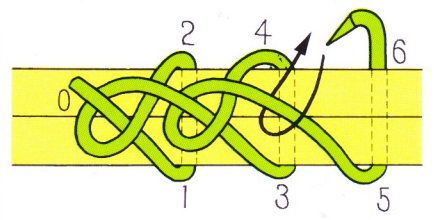


途中からのかがり始め



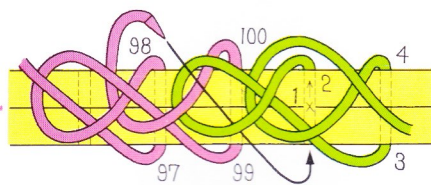
図の1~6  
 ……95~100  
 は革レース  
 を通して  
 いく革の  
 穴の  
 順番です。

途中からのかがり始め

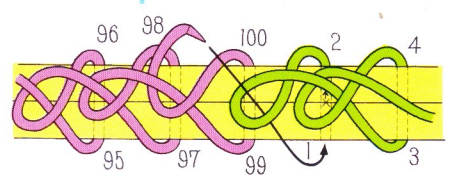


一周した  
 かがり終わり

一周した  
 かがり終わり



ダブルステッチ  
 に必要な革レース  
 の長さはかがる  
 長さの7倍くら  
 いです。



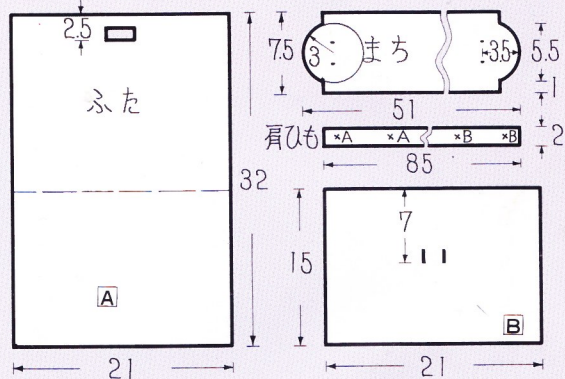
実物大図案



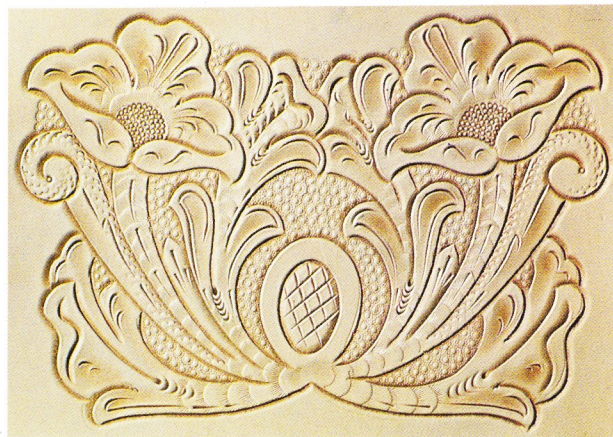
材料



革の裁ち方



② 前胸のカービング



- 刻印を打つ順序 ① C 431 ② C 433 ③ P 232  
 ④ P 212 ⑤ B 803 ⑥ B 702 ⑦ V 407 ⑧ H 907  
 ⑨ S 705 ⑩ C 453 ⑪ U 710 ⑫ U 859 ⑬ A 800



カービングのでき上がり

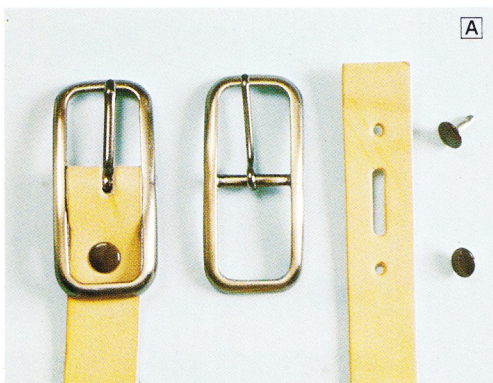
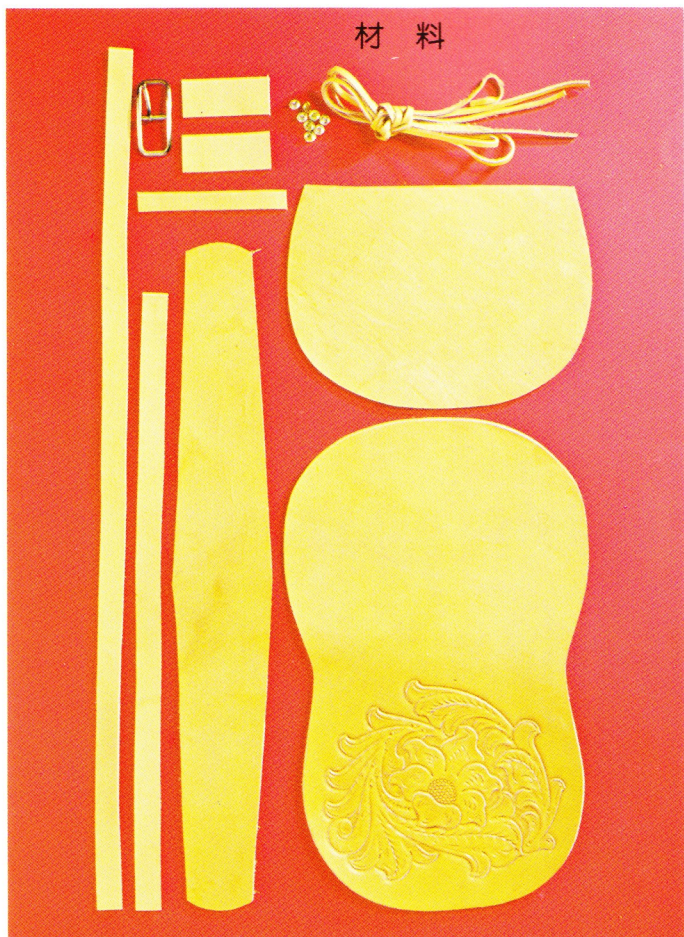
Ⓐ

実物大

この部分は左右対称ではあ  
りません。図案の一部を変  
えて変化をつけました。



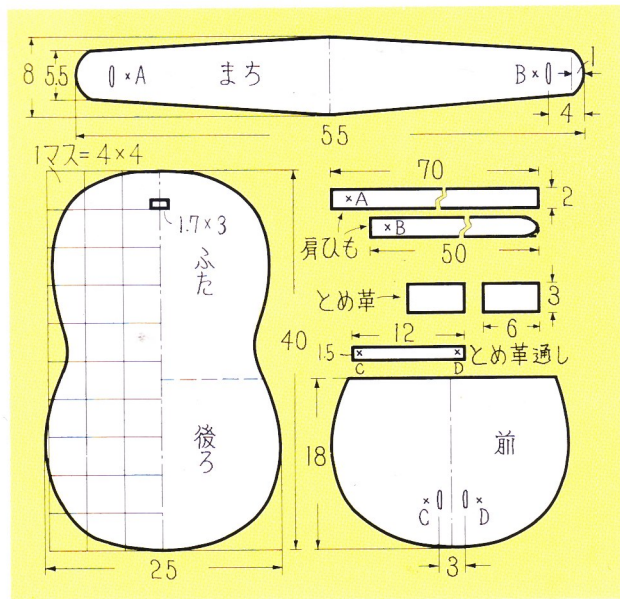
# スカイシヨルダー



この作品はクラフト社でセット販売されています



- 材料** ラテイゴ革 2.5mm 厚さ 1.5mm  
幅 5mm の革ひも 2m 幅 2cm のバックル カシメ五個 クラフトレザー染料(こげ茶) トコカラー バイナダー レザーラッカー 接着剤  
**道具** 基礎の道具 染色の道具 N Tカッター ヘリオとし ハトメ抜き カシメ打ち ヘラ付ヘリミガキ レース針
- 作り方**
- ① 型紙を作り、革を本裁ちします。
  - ② 図案を革に写しカービングします。
  - ③ バックグラウンドに色をさし、バイナダーを下塗りして乾かし、レザーラッカーを塗って仕上げます。
  - ④ トコカラーを革の床面に塗り、ヘラでみがいて裏の始末をします。
  - ⑤ ヘリオとしで角を落とし、トコカラーを塗ってヘリみがきをします。
  - ⑥ ふたにカッターでとめ革用の穴を



折り返し線

前胴の入れ口

実物大図案

前胴・後ろ胴

ふた



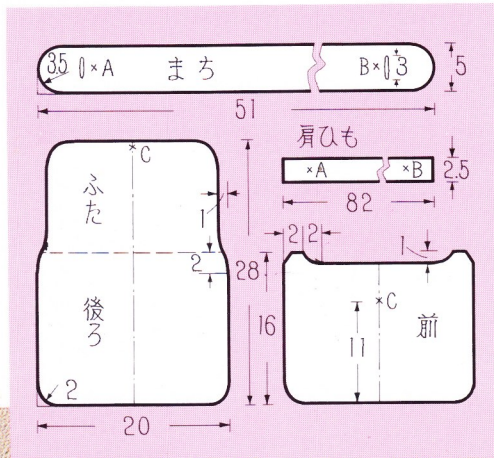
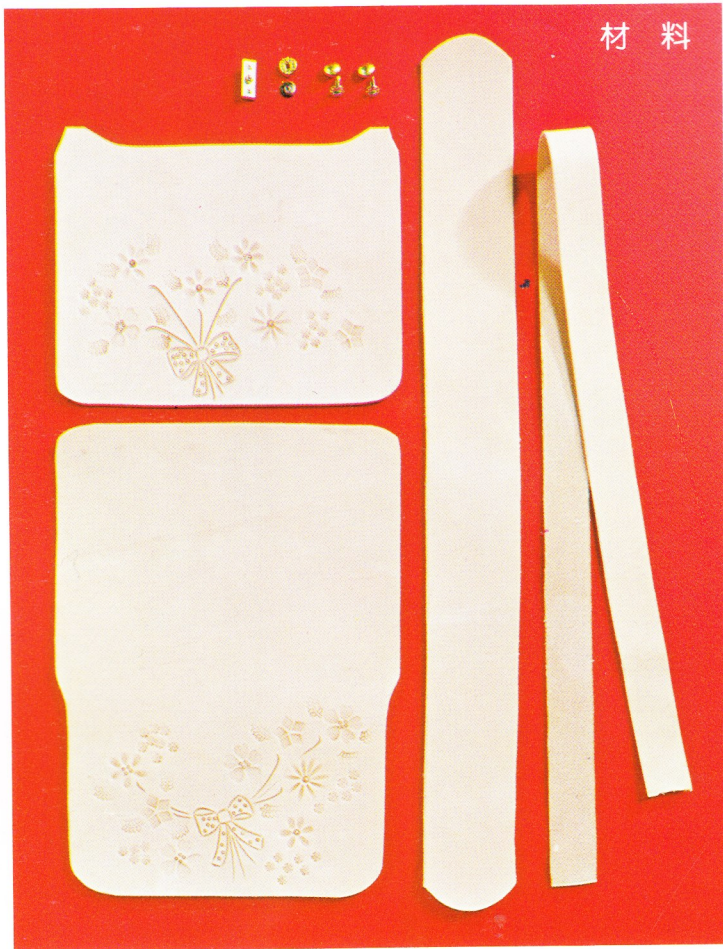
切り抜き、切り口を⑤と同様にします。  
 ⑦前胴に長さ1.8 cmの縦長の穴とC Dのハトメ穴をあけます。とめ革通しにもC Dの穴をあけ、縦長の穴にさし込んで、C Dをカシメで止めます。  
 ⑧肩ひもに写真Aを参照してバックルをカシメで止め、もう一方の肩ひもに、ハトメ穴三個をあけてはめ合わせます。  
 ⑨まちに長さ2.2 cmの縦長の穴とA Bのハトメ穴をあけます。肩ひもにもA Bの穴をあけ、まちの穴にさし込んでA Bをカシメで止めます。  
 ⑩胴とまちのへりの5 mm内側に、底中央の穴二個を基準にして、1.5 cm間隔にかがり穴をあけます。穴は必ず偶数にします。  
 ⑪まちと胴を重ねて、革ひもを使ってラニングステッチでかがり合わせます。  
 ⑫とめ革二枚を接着剤ではり合わせて紡錘形に切り、⑤と同様にへりの始末をします。端にハトメ穴を二つあけて革ひもをつけ、底のすき間から通して、中がかがりひもに結びつけておきます(写真B)。

カービング／革を湿らせます。図案を革にトレースし、カットします。刻印を①～⑨の番号順に基礎通り打ち、最後にデコレーションカットを入れます。刻印は大きめのものを使います。

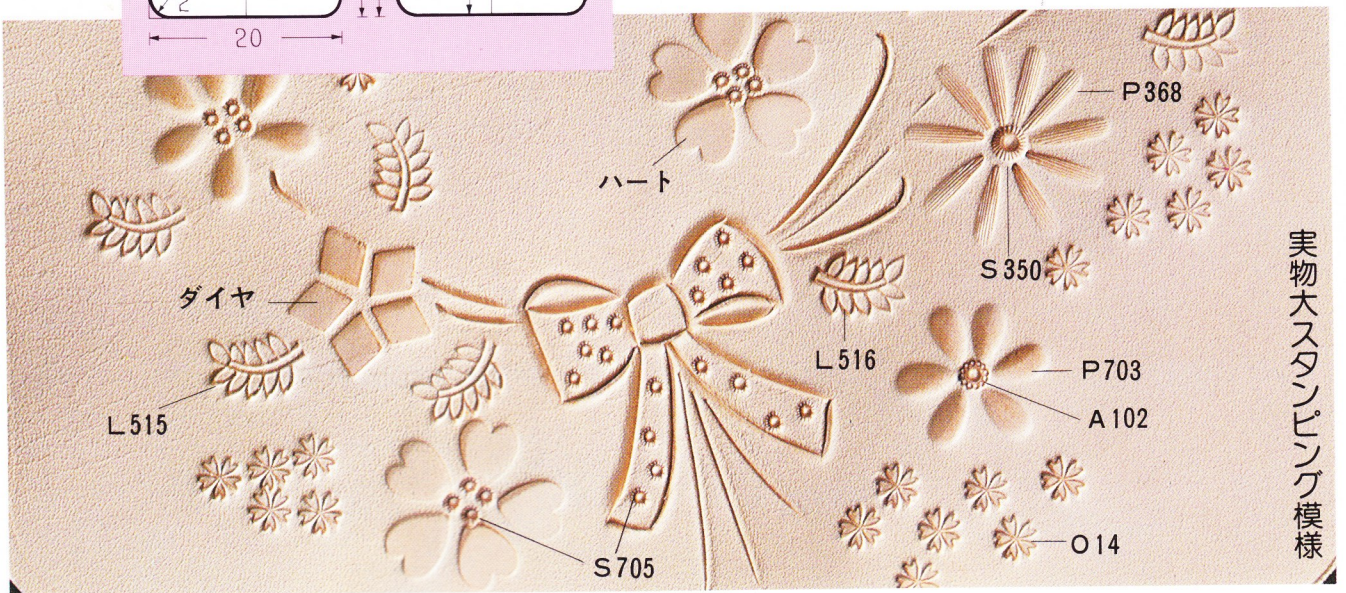
実物大カービング



# 子供の バッグ



材料/波牛1.8mm 幅3mmのレース4m スナップ 飾りカシメ二個 CMC クラフトレザー染料(茶)リキテックス(赤、緑、黄、白など) バイナダー レザーラッカー  
 道具/スカイシヨルダートと同じ道具 スナップつぶし  
 作り方  
 スカイシヨルダートと同じ要領で作ります。模様はリボンと茎だけをカットし、花や葉は刻印を組み合わせて自由にスタンピングします。全体に地染めをし、刻印に顔料でカラフルに色さしをします。ふたにはスナップをとりつけます。半返し縫いの要領でバックステッチでかがります。



# 旅行バッグ

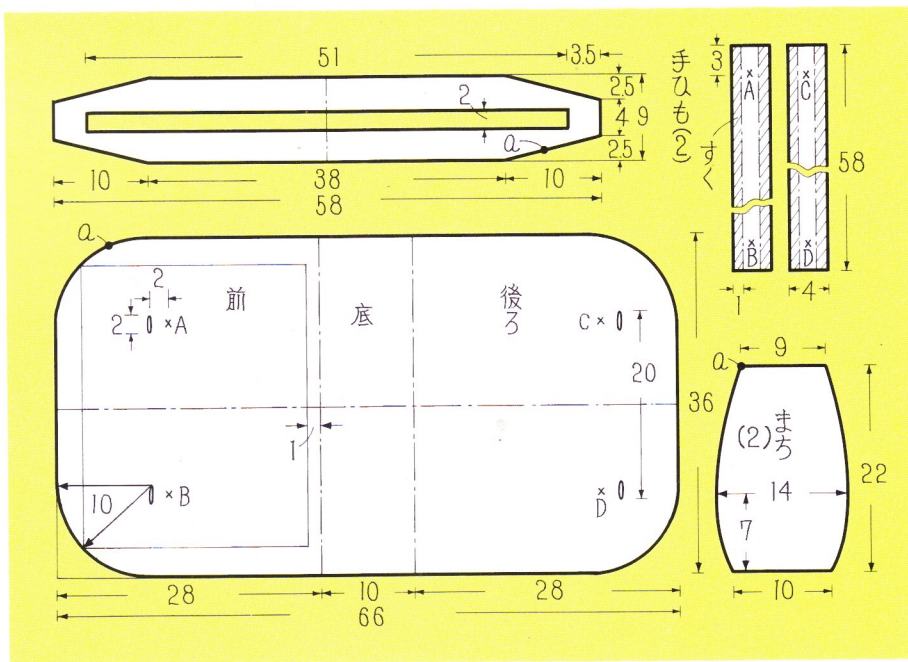


**材料** 渋牛1.8mm アメ豚 50cmのフアスナー 幅3mmのレース15m 飾りカシメ 四個 接着剤 ゴムのり レザー染料(緑紫他) バインダー レザーラッカー

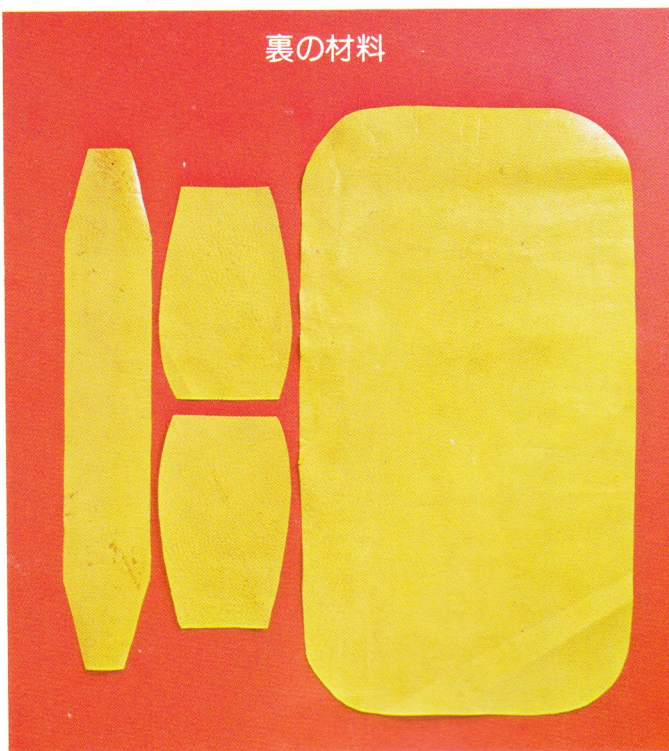
**道具** 基礎の道具 染色の道具 革包丁 レース針 一本目打ち 三本目打ち ハトメ抜き デイバイダー カシメ打ち

**作り方**

- ①型紙を作ります。まちのカーブはフリーハンドでなめらかに描きます。胴の角の丸みは半径10cmです。
- ②表革と裏革のアメ豚を粗裁ちします。
- ③手ひもは市販のものを使うか、段すきとミシン縫いを専門家にしてもらいます。
- ④作品の実物大カービングの上にトレースングペーパーを当てて、実物大図案を作り、革に図案を写します。
- ⑤本体の前と後ろにカービングをします。
- ⑥レザー染料で色しをします。絵を描くように、色を重ねて濃淡をつけます。
- ⑦バインダーを下塗りし、乾いたらレザーラッカーで仕上げをします。
- ⑧手ひもをさし込む穴をあけます。
- ⑨飾りカシメの穴(A・B・C・D)を胴と手ひもにハトメ抜きであけます。
- ⑩手ひもを⑧の穴にさし込み、飾りカシメを⑨の穴にはめて、止めます。
- ⑪⑩の裏側に、当て革をはります。
- ⑫ゴムのりで表革と裏革をはり合わせます。底の部分は後で曲げやすいように裏革をつりぎみにして、丸みをつけます。
- ⑬型紙を当て、本裁ちをします。
- ⑭フアスナーの穴を切り抜きます。フアスナーつけは、専門家にミシン縫いをしてもらいます。
- ⑮へりの5mm内側に、薄く線を入れます。
- ⑯の線にかがり穴をあけます。まず



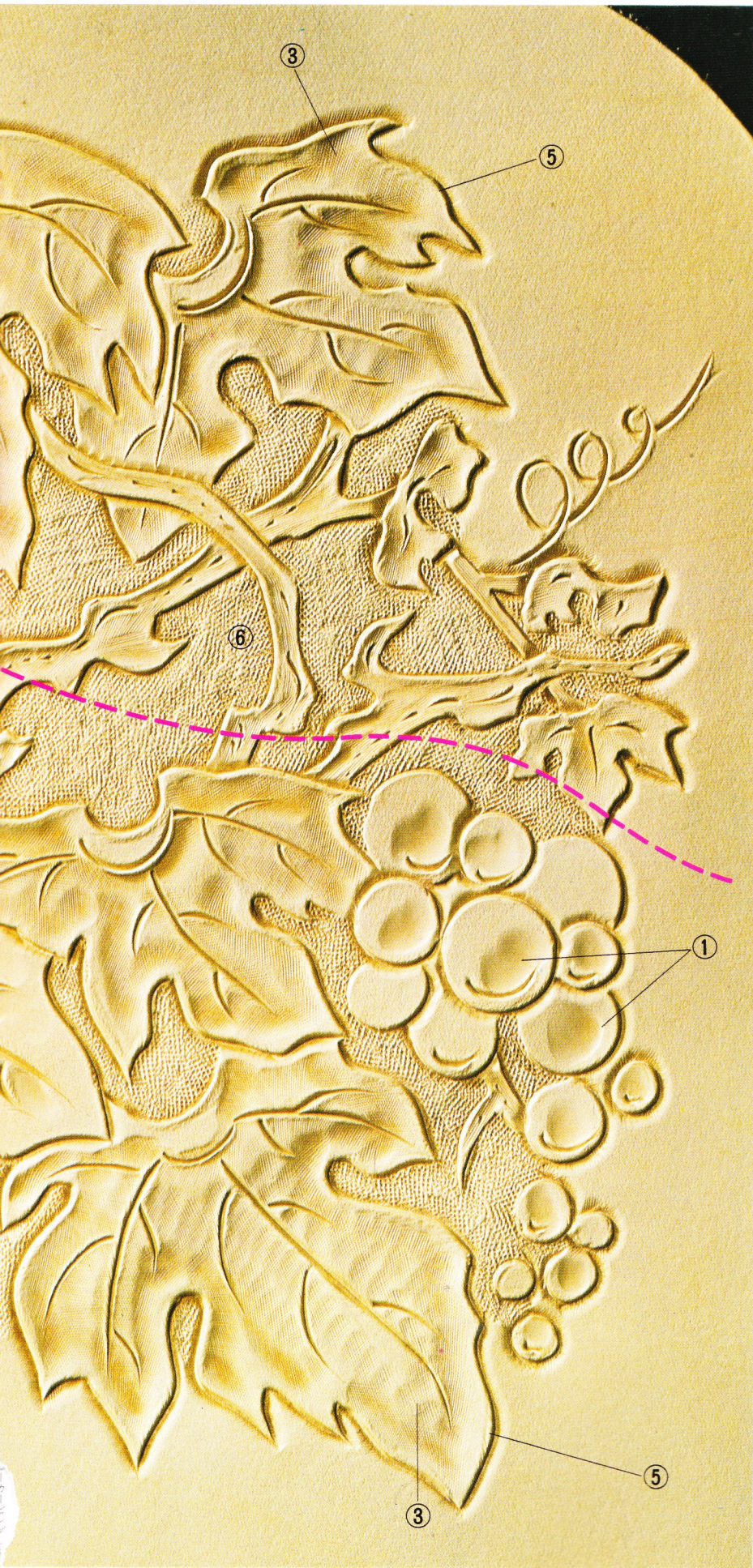
後ろ側



裏の材料



表の材料



二枚の革の底中央、上部中央を合わせてから順に寸法を合わせ、ポイントになる角などの位置にハトメ穴をあけます。三枚の革が重なるaの下にも三個ハトメ穴をあけます。次に幅3mmの三本目打ちと一本目打ちで、二枚の革の穴がそろいうに別々に3mm間隔に穴をあけます。  
 17 まちと胴を軽く接着剤ではり合わせ、シングルステッチでかがり合わせます。  
 18 胴と入れ口を同様にシングルステッチでかがり合わせます。aのハトメ穴三個は三枚の革が重なります。

### カービング

- 1 革を湿らせます。図案を革に写し、カットします。葉脈のカットは最後。
- 2 ぶどうのふくらみに①P 206を打ちます。
- 3 模様なしの葉を①P 206と②P 222で、チエック模様の葉を③P 213で立体感が出るよう、強弱をつけながら連打します。
- 4 枝に④P 861を打って筋をつけます。
- 5 カット線の外側を⑤B 702(細)で連打して斜角をつけます。
- 6 バックグラウンドを⑥A 104でつぶします。
- 7 葉脈のカットとぶどうと枝のデコレーションカットを入れます。

### 3枚の革の重ね方



### 後ろのカービング





# 実物大カービング

- ① P 206
- ② P 222
- ③ P 213
- ④ P 861
- ⑤ B 702
- ⑥ A 104

刻印を番号順  
に打ちます



後ろのカービングはこの点線の内側と同じです

# バサ ッド ゲル



デザイン／川崎広久  
制作／斎藤誠二

協力／本田技研工業(株)

この作品はミシン縫いで仕立てています。普通の家庭用ミシンでは仕立てることができませんから、この通りに仕立てたい場合は専門家に頼む必要があります。したがってここでは手縫いで仕立てる方法を紹介します(42ページ参照)。ミシンの場合はナイロン糸でヘリの3mm内側を3.5mmくらいの縫い目で縫いますが、手縫いの場合は大い口ウ引きの麻糸を使うので、5mm内側に溝を切り、その中を大きい縫い目で縫います。縫い穴は、ひしぎりか6本ひし目打ち(大)であけます。糸の両端につけた針二本で縫いますが、手縫い機を使えばより簡単です。

**材料** 洗牛2mm こげ茶豚 バックル二個 カシメ四個 CMC 接着剤 ゴムのり WA染料(黒) エッジエナメル(茶) バインダー レザーラッカー  
**ロウ引き糸**

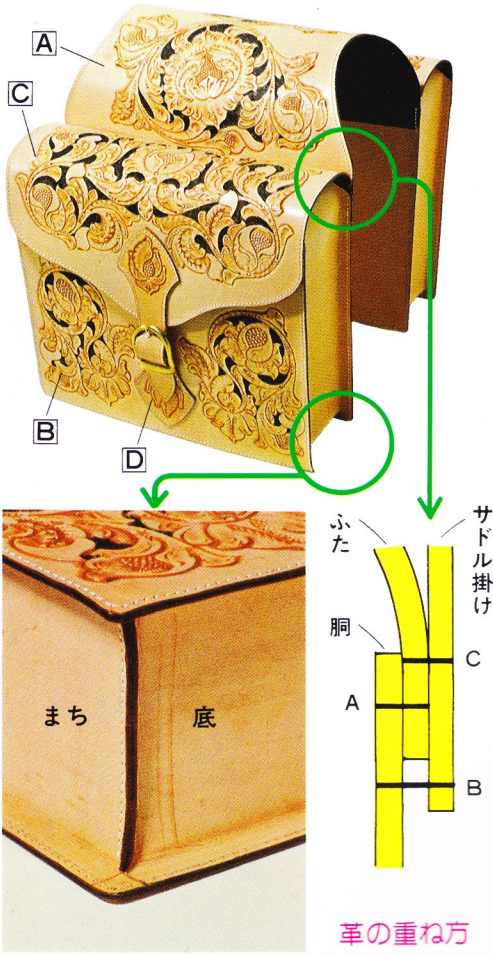
**道具** 基礎の道具 染色の道具 革包丁 革スキ ヘリおとし ヘリミガキ カシメ打ち ハトメ抜き ステッチンググルーバー 六本ひし目打ち 革用針二本  
**作り方** 左右のバッグは同じものですが、それぞれの作業を二回くり返します。

①型紙を作ります。サドル掛けの部分はとりつけるオートバイや自転車のサドルや座席の幅に合わせてみます。  
 ②表革と裏革を粗裁ちします。ペロ革は本裁ちにします。  
 ③図案をトレーシングペーパーに写し、革を湿らせて図案を写します。  
 ④カービングをします(70〜73頁参照)。  
 ⑤バックグラウンドに黒で色をさします。  
 ⑥全体にバインダーを下塗りし、乾いたらレザーラッカーを塗って仕上げます。  
 ⑦まちと底の縫いしろを1cm幅に、ふた

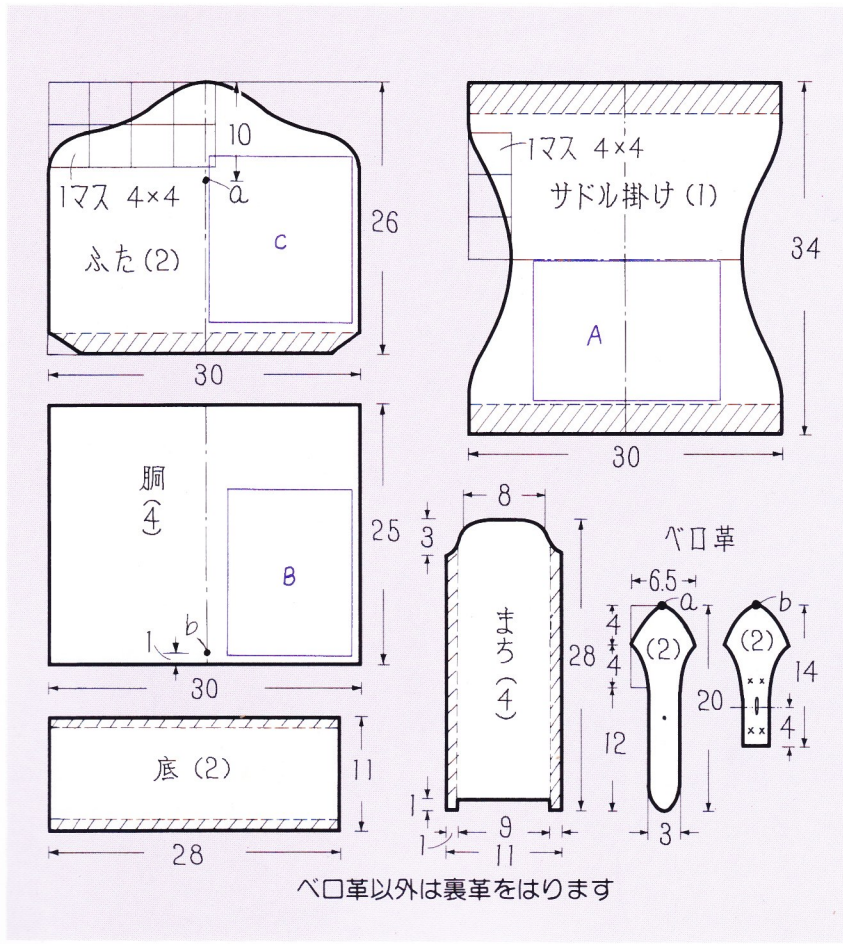
の重ねしろを2cm幅に、サドル掛けの重ねしろを3cm幅に革すきます。革すきをする部分はたくさんありますので、専門店に頼む方が無難でしょう。  
 ⑧CMCでペロ革の裏とヘリの始末をし、一方にバックルをつけてカシメ二個で止めます。もう一方には穴をあけます。  
 ⑨ペロ革の縫う部分だけに溝を切り、ふたと胴にa,bを合わせて接着剤ではりつけ、縫い穴をあけて縫いつけます。  
 ⑩ゴムのりを表革と裏革の両面の裏に塗り、はり合わせてガラス板でのばします。ふたには丸みをつけます。

⑪型紙を当て、本裁ちをします。  
 ⑫ふたとサドル掛けのヘリの角を落とし、ヘリをみがきます。緑の5mm内側にステッチンググルーバーで溝を切り、縫い穴をあけて飾りのステッチを縫います。  
 ⑬バッグの部分を縫います。149ページの図の要領で、まずまちと底の角を縫い合わせてから、前胴と次に後ろ胴と縫い合わせます。縫いしろはあらかじめ接着剤ではり合わせ、ヘリの角を落としてヘリミガキでみがいしておきます。ヘリの5mm内側をステッチンググルーバーで溝を切り、糸の両端につけた二本の針で縫い入ります。縫うときはバッグの中に箱などを入れてひざにはさんで固定します。

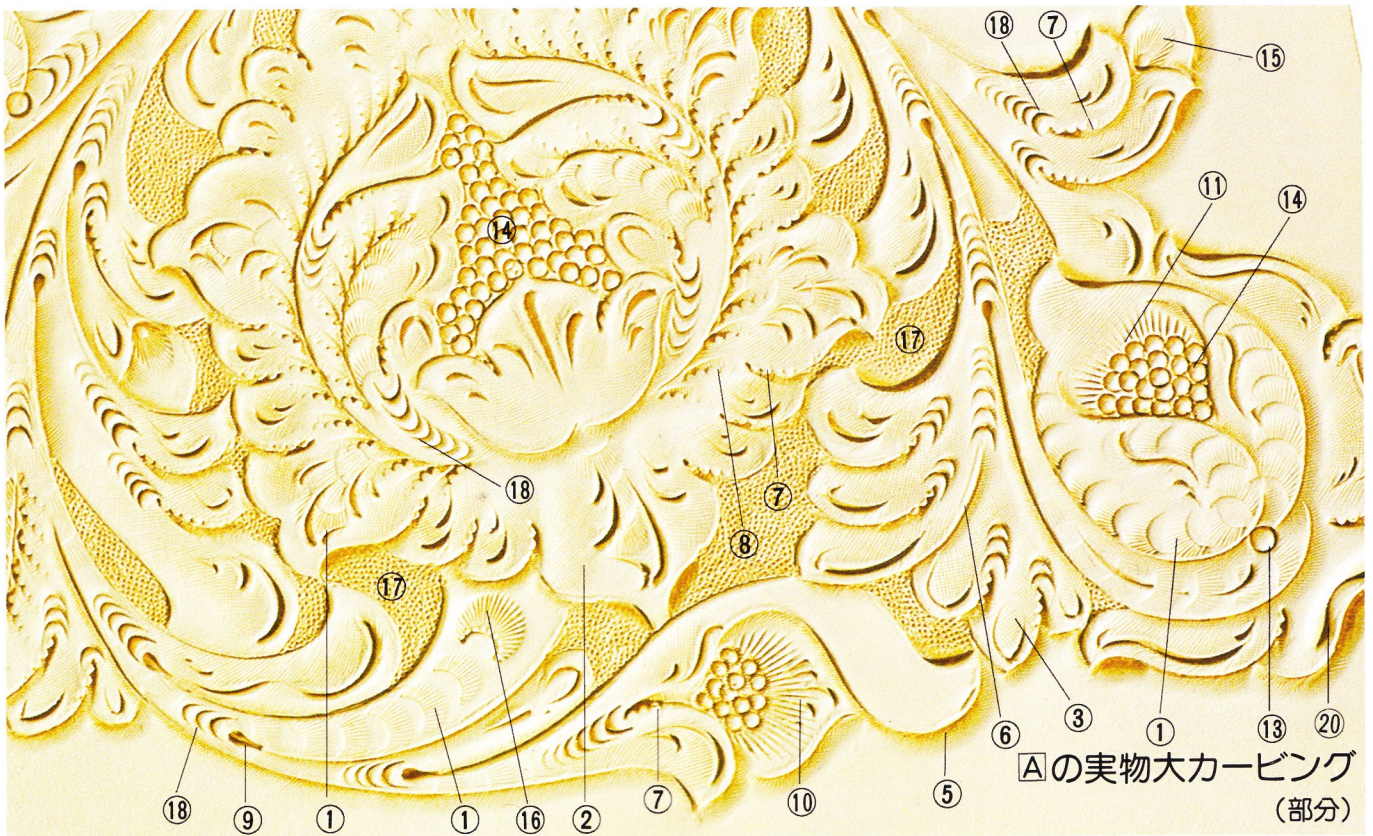
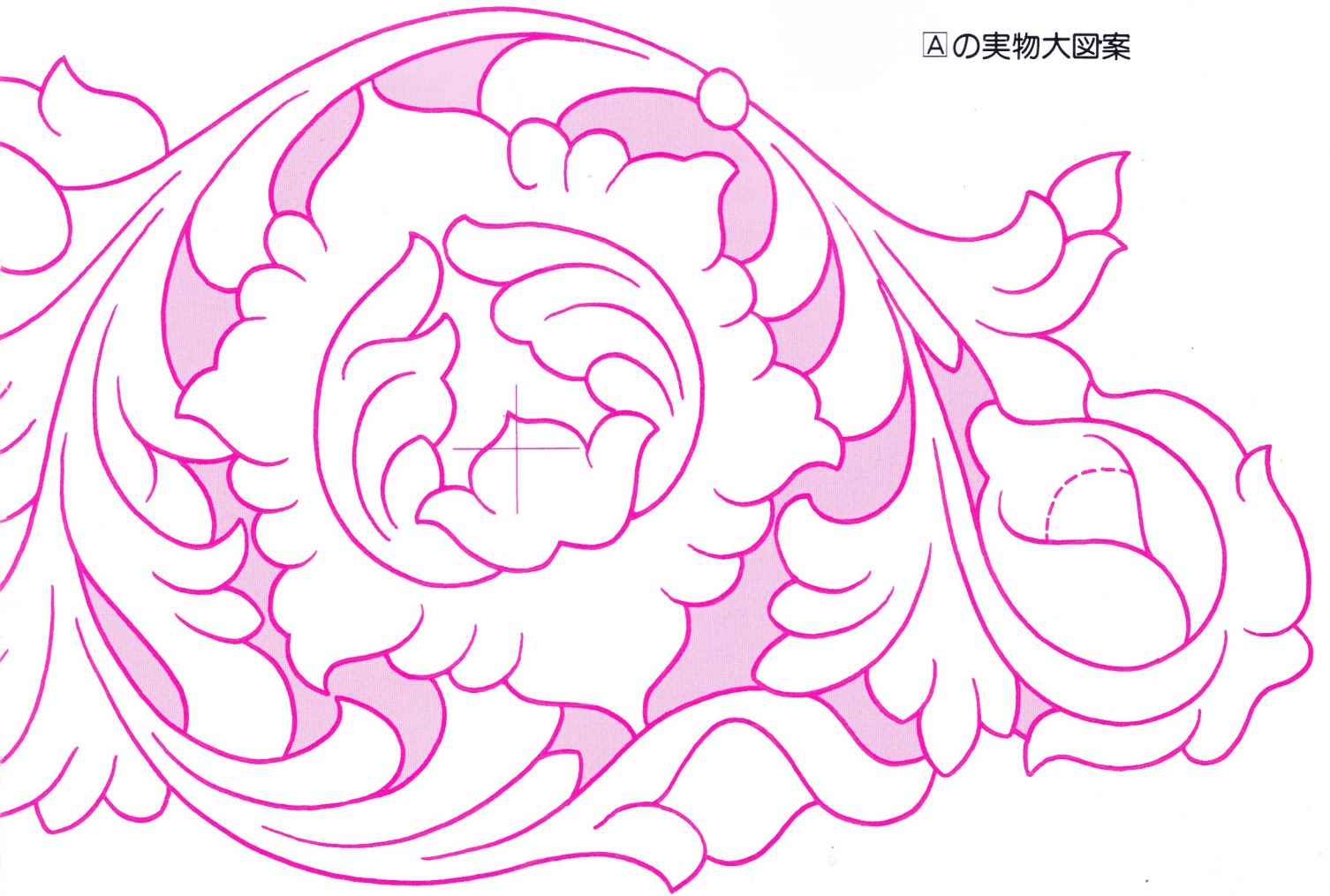
⑭バッグにふたをつけ、二つのバッグをサドル掛けでつなぎます。ふたと胴を2cm重ねて軽く接着剤で止め、その中央を縫い(A)、これにサドル掛けを3cm重ねて、まず胴と(B)、次にふたと(C)を縫い合わせます。ふたと胴の間は強力接着剤で止めつけます。  
 ⑮すべてのヘリにエッジエナメルを塗り、でき上がりです。



革の重ね方



㊦の実物大図案



㊦の実物大カービング  
(部分)



図のカービング全形

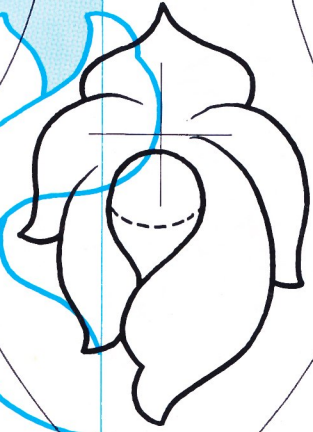
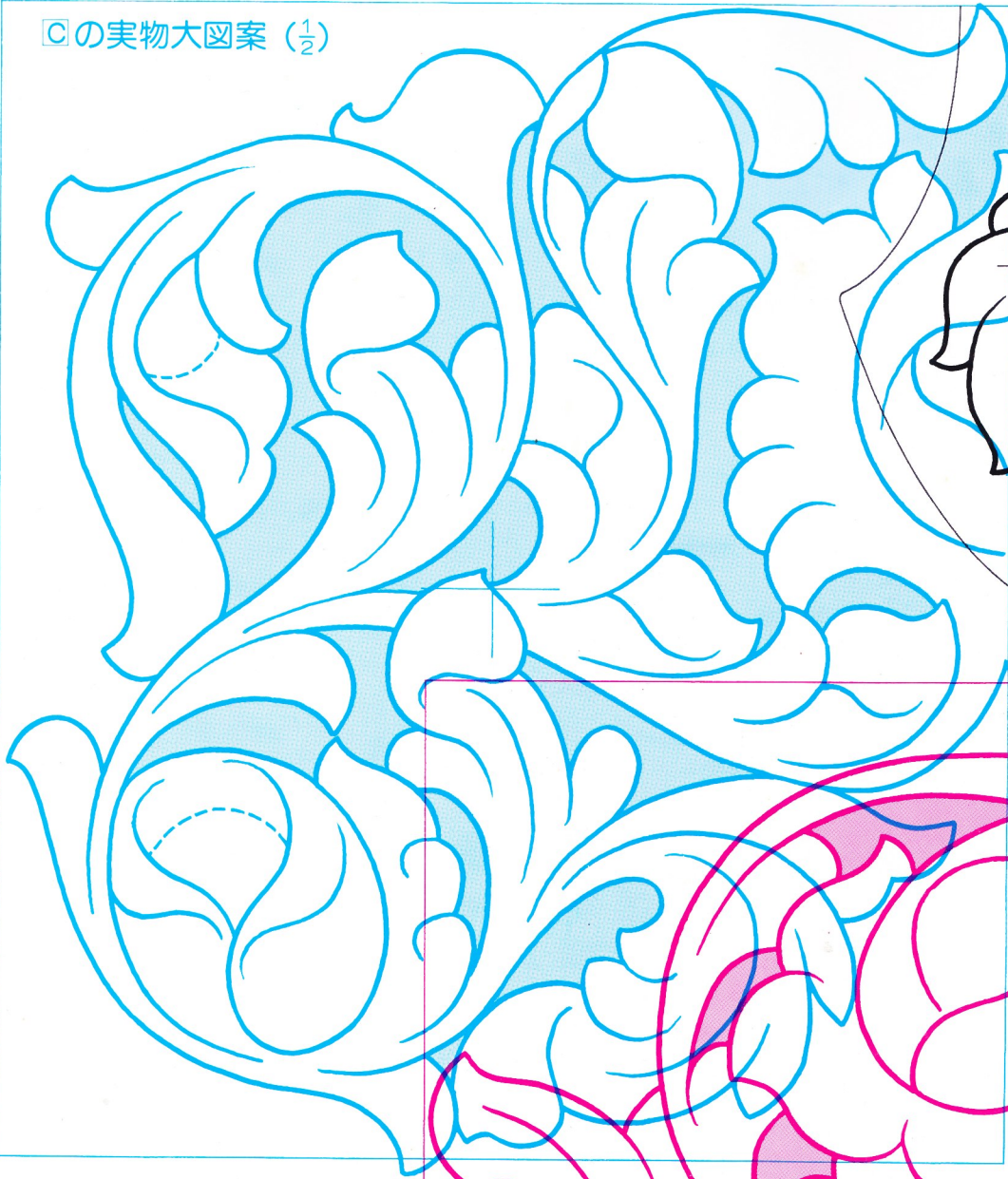


図の実物大カービング全形(左側)  
この図案は72ページにあります

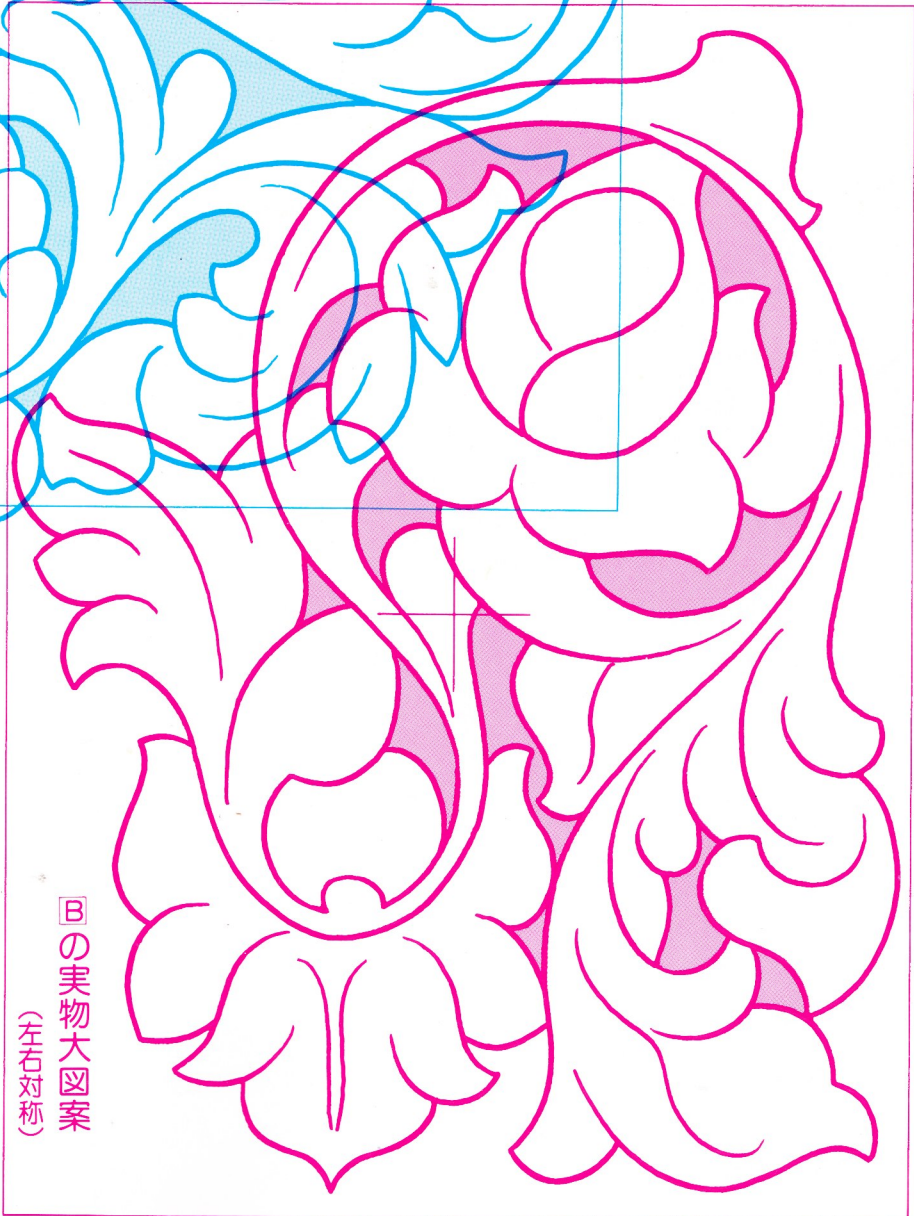
- |         |         |
|---------|---------|
| ① C 431 | ⑪ C 454 |
| ② P 232 | ⑬ S 633 |
| ③ P 213 | ⑭ S 722 |
| ⑤ B 803 | ⑮ N 363 |
| ⑥ B 198 | ⑯ N 720 |
| ⑦ V 708 | ⑰ A 104 |
| ⑧ V 407 | ⑱ U 859 |
| ⑨ H 907 | ⑲ T 942 |
| ⑩ C 453 | ⑳ T 943 |

カービングについては73ページ参照。刻印を番号順に打ちます

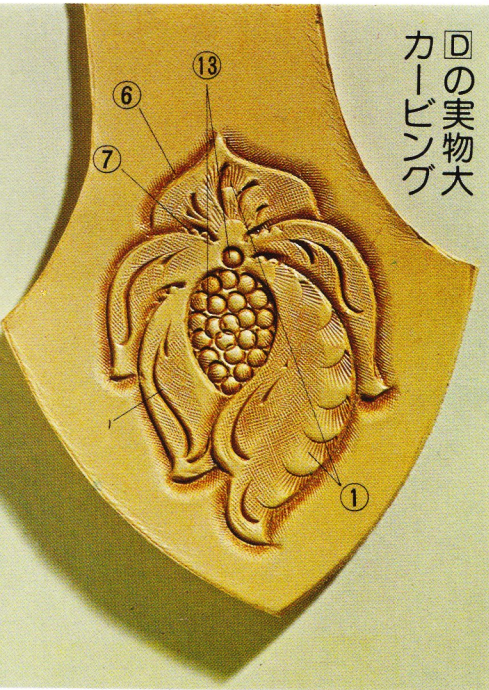
㉔の実物大図案 (1/2)



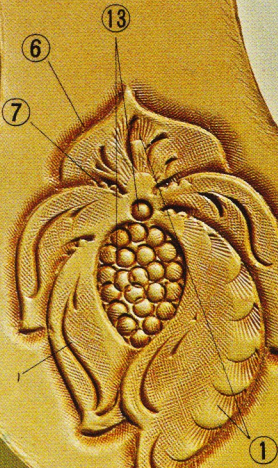
㉔の実物大図案



㉔の実物大図案  
(左右対称)



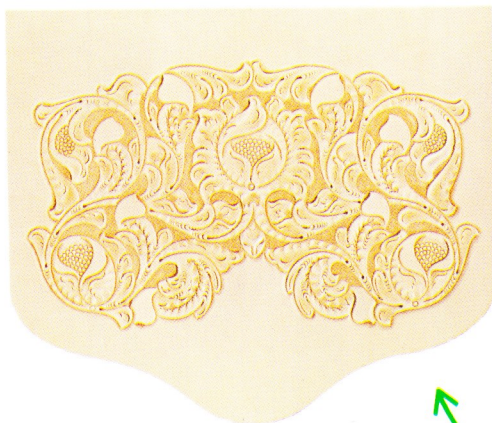
㉔の実物大  
カービング





□の实物大カービング(部分)

カービング  
 1 図案を革に写し、カットします。  
 2 茎、葉脈、花びらに①C 431を打ちます。  
 3 チェックの陰影を、広い部分には②P 232、狭い部分には③P 213でつけます。  
 4 P 206の陰影を



□のカービング全形

① C 431	⑦ V 708	⑭ S 722
② P 232	⑧ V 407	⑮ N 363
③ P 213	⑨ H 907	⑯ N 720
④ P 206	⑩ C 454	⑰ A 104
⑤ B 803	⑫ C 455	⑱ U 859
⑥ B 198	⑬ S 633	

刻印を①～⑱の番号順に打ちます

つけます。  
 4 カット線にそって⑤ B 803で斜角をつけます。細かい部分は⑥ B 198を使います。  
 5 花びらと止めに⑦ V 708を打ちます。  
 6 葉脈に⑧ V 407を打ちます。  
 7 止めを⑨ H 907で打ちます。  
 8 花芯の回りのあさひを⑩ C 453、⑪ C 454、⑫ C 455で大きさによって打ち分けします。  
 9 花の根元を⑬ S 633で、花芯を⑭ S 722で打ちます。  
 10 つぼみの花芯を⑮ N 363、⑯ N 720で打ちます。また⑰と□の中央の花の根元にも⑱を打ちます。  
 11 バックグラウンドを⑰ A 104でつぶします。  
 12 止めの後を⑱ U 859で打ちます。  
 13 □の中央のつぼみに⑱ T 942、⑰の右下の花のくびれと、⑰の葉と花のくぼみを⑱ T 943で打ちます。  
 14 デコレーションカットを入れます。

